図書館だより 第39号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

－目　次－　contents

■俳句の真髄に迫る …… マクマレイ・デビッド …… 2p
～Approaching the Essence of Haiku～

■鹿国大附属図書館と私 …… 藤田　淳二 …… 3p

■マクマレイゼミお勧めの本 …… 4～5p

■図書館サポーター活動報告 …… 6p

■Library Report …… 6～8p

俳句の真髄に迫る ～Approaching the Essence of Haiku～

国際文化学部教授　マクマレイ・デビッド

海士(あま)の屋(や)は小海老(こえび)にまじるいとど哉(かな)

松尾芭蕉が近江の堅田で読んだ句です。「いとど」とは、コオロギに似た、羽がなくジャンプ力に優れている「カマドウマ」のことです。この句は、目に触れたものを即興的に詠む「嘱目吟」と呼ばれるもので、海士の貧しい家に入ったところ、獲りたての小海老の籠の中にカマドウマも一緒になって飛び跳ねているという光景を表現した「軽み（身近な題材の本質に深く迫りながらも、表現はあくまでもシンプルにさらりとしている芭蕉晩年の俳諧理念）」の代表作の一つです。

松尾芭蕉の二人の弟子である向井去来と野沢凡兆は、蕉門の最高峰の句集『猿蓑（さるみの）』撰を編集し、1691 年6月には芭蕉が京都に滞在し、『猿蓑』撰の監修を行いました。編集中、この句と「病雁の夜寒に落ちて旅寝哉」のどちらを入集するか決めるとき、凡兆が、「海士の屋の句は格別際立った新鮮さを感じさせる」と述べると、去来は「その句は興味深いものであるが、海士の屋の景色を思わせるならば、私でも詠めるだろう。病雁の句こそ格が高く趣深い句だ。」と反論しました。どちらを入集するか議論を尽くしたのですがなかなか決まらず、最終的に両方入集したというエピソードがあります。

さて、世界的なミリオンセラー『優雅なハリネズミ』の作者で、京都在住のフランス人作家ミュリエル・バルベリさんも俳句愛好家です。

この小説の主人公は、12 歳の天才少女パロマと 54 歳の未亡人ルネの二人。並外れた感性と頭脳を持ちながらも世間とかかわりを持つことを拒み、自らの殻に閉じこもっている二人は、日本人紳士オズとの出会いによって人生が変わっていくという話で、パロマの視点、ルネの視点を交互に織り交ぜながら話が進んでいきます。日本的なものが好きなパロマは、芭蕉の「海士の屋は…」の句がいちばん好きと言い、日記を俳句や短歌で表現しようと試みます。この小説で最初にでてくるパロマの句

Follow the stars
In the goldfish bowl
An end

は、世間とのかかわりを絶ちたいと思っているからか、どこか悲しさを感じさせます。

2014 年に行われた国際俳句コンテストで来学し、審査員を務めたキャロライン・ケネディ前駐日米国大使も俳句の愛好家です。余談ですが、彼女の父故ジョン.F. ケネディ元大統領は私にとってヒーローです。私は大学4年生の時、大学院に入学するため速読のスキルを身に付ける必要がありました。もともと本好きでしたので、速読トレーニングを兼ね一日一冊の本を読むことを課し、大学院への入学適性試験ではハイスコアを取得することができたのですが、故ケネディ元大統領は速読が得意で、1分間に 1,200 語読んだというので、改めて尊敬します。

私は来日してから、多くの俳句コンテストの審査員を務めていて、伊藤園主催「伊藤園お～いお茶新俳句大賞」の英語俳句一次審査員もその一つです。英語俳句の部への応募総数は、2016 年 17,825 句、2017 年 18,248 句、そして 2018 年 20,815 句と年々増えています。俳句の審査にかける時間も長くなり、今回は約 400 時間かかりました。これはサラリーマンが 10 週間働くことに値します。

俳句は明治時代に翻訳され海外に紹介されましたが、本格的に世界中に広まったのは WW Ⅱ 後です。今では、世界中に広まり英語以外に、フランス語やロシア語等色々な言語で詠まれ、多くの人の支持を得ています。「世界一短い詩」として世界中の人々を楽しませ、魅了し続けている要因は色々ありますが、前出の芭蕉の二人の弟子が、『猿蓑』を編集するにあたり、一句一句を深く読み解き、掲載する句を吟味し、『猿蓑』を文学的芸術に高い品質を持った作品に仕上げたことは大きな要因の一つと言えるのではないでしょうか。

私の夢は、座卓で少しずつお茶を飲みながら、ゆっくりと声に出して俳句を詠み、ほかの委員会のメンバーたちと一緒に俳句を審査することです。そして、今後、多くの学生が俳句を詠み、書き、互いに評価しあい、最終的に俳句の本を出版してくれることを願っています。

鹿国大附属図書館と私

元職員　藤田　淳二

昭和 49 年4月、私は本学（当時は鹿児島経済大学）へ入職後、43 年間を大学職員として勤務した。そして、そのほとんどが教務部や学生部、就職部や図書館等と、学生さんの勉学や学生生活を支援する部局であった。中でも、附属図書館には3度も異動し、在職期間の約半分にあたる 20 年をも勤務し、その間に貴重な仕事を2件も経験させてもらった。

１件目は、予算等の理由から中断していた司書講習を当時の学長野久尾徳美先生の指示により、平成元年夏に再開した事である。講習は先行大学であった別府大学佐藤允昭教授のご教授をいただき、当時の附属図書館事務長であった榮喜久元先生を中心に図書館員が力を合わせて再開した。

司書講習は大学の社会貢献事業として、県内外の図書館関係や県民各位からの期待も大きく、個人の受講生の他にも県庁や市役所等からの受講生も多かった。

しかし、当時の講習開催にはそれなりの苦労があり、遠方受講者の宿泊所探しや、長期に渡る講習期間中の受講生の受講相談やお世話であった。また、当時は１か月もの間、独占して使える教室はなく、旧図書館（現ユーカリ会館）の閲覧室を図書館員で教室に作り変え使用したが、急拵えの教室だった為、盛夏のさなか冷房もなく、受講生も講師も汗だくになりながら 13 科目 330 時間の授業を受講し、苦労して各科目の試験に合格して終了証書を手にしていった。実は、事務部局から異動したばかりの私もこの講習で司書資格を取得したのである。

２件目は、新図書館建築と、それに伴う旧図書館からの引っ越しである。

新図書館建築では、設計当初から、新図書館の形状について、美的な建物にするか実用的な建物にするかで、かなり討論した。美的、実用的の双方ともそれなりの理由があったが、結局は図書館員の働きやすさ、作業動線の良さを優先して、現在の実用的な附属図書館になったのである。

新館には色々な工夫が詰まっている。まず入口付近の図書館の「銘標」である。「他大学等に無い様な銘標を」との思いから、台石は適法に採取した桜島の溶岩を使用。題字には、大学裏の山名が錫山であることから鹿児島名産の錫を使用した。次に附属図書館へ入ってすぐに、「鹿児島県の地形をしたテーブル」を配置。次には図書館入り口付近の事典辞書類を配架する書架群の低書架群を、厚手の辞書等の使い勝手の良さや天板がテーブル代わりになる事等を生かしたままで、欠点である配架冊数の少なさを、改造によりカバーした。又、蛍光灯の逆光により、書架に配架した図書の背文字が見えない事が無いように、階ごとに光の流れを交差するという建築のルールを無視して、書架のある階は全て書架列と蛍光灯の流れが直角になるように配置した。

開架書架は、車椅子でも回れる程のゆとりがあるなど、まだまだ工夫した所は色々あるので、興味を持って、附属図書館に足を運んでもらいたい。

マクマレイゼミお勧めの本

マクマレイゼミでは、英語に慣れ親しむための活動の一環として、英語で書かれた本を読んで、紹介する機会を設けています。英語の本というと難しく考えてしまいがちですが、皆さんになじみのある物語を英文を通して読むことで、新たな発見があるかもしれません。より作品の本質により迫ることができる楽しみを味わうことができるでしょう。新しい英語の本との出会いが、みなさんの人生を豊かに彩るものになるに違いないでしょう。

Active Learning & Active Teaching 学生参加型の実践的授業における評価方法

David McMurray 著（出版者：鹿児島国際大学　出版日 :2018 年2月1日）

本書では、アクティブ・ラーニングを用いた授業方法とその評価の改善を目的とし、ビジネ単語やビジネスケースの学習を通して、英語技能の向上のみならず、鹿児島とアジアのビジネス理解にもつながるよう執筆されています。本学における英語リーディング指導の実態を例に挙げ、全学生が積極的に講義に参加できる一例として SWOT 分析や PDCA サイクルを用いたビジネスケースを授業内に取り入れる授業形態を紹介しています。本書は本学の授業にも取り入れられており、実際にビジネスケースを用いることでより身近に問題を捉えることができ、学生は自ら考え互いに議論し合うことで内容を深められる一冊となっています。

国際文化研究科修士課程１年　池田　佳奈美

Martin Luther King

Coleen Degnan-Veness 著（出版者：Penguin Readers　発行年：2003 年）
資料 ID：10003721171　　請求記号：837.7 // PE

この本は、1960 年代のアメリカにおける黒人の公民権運動を率いたマーティン・ルーサー・キング牧師の生涯と黒人差別の歴史について書かれたものです。今日、世界では内向きの流れが強まりつつあります。特にヨーロッパの一部の国で、移民・難民の排斥を唱える右派政党が政権を握るまでに勢力を拡大させています。そのような状況の中で、キング牧師の教えは、どのようにすれば世界の人々が互いを尊重し合って生きていくことができるのかという課題の解決に大きなヒントを与えてくれているのではないでしょうか。本書は洋書ですが、中学校・高校レベルの英語で書かれており、また簡潔で分かりやすい表現を用いているので、これから洋書に挑戦したいと考えている方におすすめの一冊です。ページ数も少なめで、気軽に手に取って読める本だと思います。

国際文化学部国際文化学科４年　神前　将太

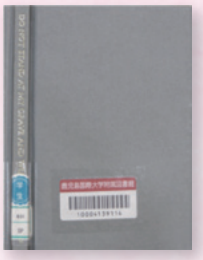
英語の意外な非常識

MEMO ランダム編（出版者：三修社　発行年：2001 年）
資料 ID：10003275073　　請求記号：834//ME

この本は、知っているようで知らない多くの英単語や文章が載っています。たとえば、とんぼ、たけのこ、ぎっくり腰、お先にどうぞ。など、日本語では当たり前に使っている言葉も英語ではどのように表現するのかわからないものがたくさんあります。この本をきっかけに少しでも多くの方が英語に興味を持っていただき、英語の面白さを知っていただけたら嬉しいです。

国際文化学部国際文化学科３年　今別府　麻生

Do not stand at my grave and weep



Mary Fry 著（出版者：Souvenir Press Ltd　出版日：1996 年）
資料 ID：10004139114　　請求記号：931//SP

あの有名な「千の風になって」の原詩と言われていて、日本語と英語では頭の中に浮かぶ景色が違って見えてきます。一ページに一つの詩と挿絵だけの表現はそれだけでも寂しさや温かさを感じることができると思います。英語が得意ではなくても読みやすい本なのでぜひ手に取ってみてほしいです。

国際文化学部国際文化学科3年　藤崎　理久

星の王子さま（新潮文庫 サー1－3）

サン＝テグジュペリ［著］：河野万里子訳（出版者：新潮社　出版年：2006 年）
資料 ID：10003999397　　請求記号：953//SA

今回、誰もが題名は聞いたことがあるであろう、この本を推薦しました。この物語の主役でもある王子さまは、自分が住んでいた星を、一輪のバラがきっかけで出ていくことに決めました。そこからいくつかの星を訪ねて、各星で１人ずつ個性的な人物に出会っていきます。出会いとともに王子は大事なことに色々と気づいていきます。小さいころ読んだときの感覚と、今、大人になって読んでみるのとでは感覚が全然違い、本の内容の深さを感じることができます。物語に出てくる様々な人物がそれぞれ１つずつ人生において大事なヒントを与えてくれます。この本を読んで新しい視点、考え方を見つけてみてください。

国際文化学部国際文化学科2年　冨田　彩乃

The old fashioned Mother Goose' melodies, complete : with magic colored pictures (Magic Mother Goose Melodies)

Donaldson brothers 著　（出版社：ほるぷ出版　出版日：1879 年）
資料 ID：10002717525　　請求記号：931//HO

私が紹介する本は、絵がわり・マザーグースのメロディという本です。イギリスには、古くから子供のための童謡としてつたわっている、マザーグースの歌というものがあります。この本は、全部で 47 個の童謡が絵付きで描かれていて、小さなページをめくると絵が変わって、話の続きが読めるようになっている、少し変わった面白い本です。お話の内容は、子守唄だったり、なぞなぞだったり、数え歌だったり、短い内容で、単語も難しくないので、本の内容を楽しむことができました。興味のある方はぜひ読んでみてください。

国際文化学部国際文化学科1年　川島　綾佳

The Flowers of HAIKU

Murasaki Sagano 著　（2003）
資料 ID：10003619341　　請求記号：911.3//SM

四季折々の花を俳句で表現しています。いつも私たちが慣れ親しんでいる日本語ではなく、「英語」で詠まれています。私はこの本と出会った時はじめは、「英語だから読みづらそう」などと思っていたのですが、読んでみると日本語で書かれているのと変わらないくらい美しく書かれていて驚きました。また、一つ一つがとても短いので英語が苦手な私でも気軽に読めました。ぜひ読んでほしいです。

国際文化学部国際文化学科1年　白窪　　怜

この活動を通して、みんながひとつになっていく過程をみることができたのは何よりの収穫でした。また、レビューを通して、普段は気づかない仲間の思いや考えを知ることができ、新たな一面を発見できた気がします。ここには掲載されていないレビューの数々も、読んでいて心温まるレビューとなっていました。このような機会を与えて頂き、ご協力頂きました図書館だより関係者の皆様方に感謝いたします。

国際文化学部国際文化学科3年　高吉　智子

図書館サポーター活動報告《2018年度》

5月　☆テーマ展示　「ゴールデンウィーク」「図書館」「5月生まれの作家」

6月　☆テーマ展示　「きのこ」「父の日」「学芸会・遊音祭関係の本」「6月生まれの作家」
☆選書ツアー

7月　☆テーマ展示　「世界遺産」「旅行」「祭り」「花火」「7月生まれの作家」
☆第1回オープンキャンパス
・サポーター企画イベント…「クイズラリー」「地下探検」
・サポーター紹介リーフレット配布

8月　☆第2回オープンキャンパス
・サポーター企画イベント…「クイズラリー」「地下探検」
・サポーター紹介リーフレット配布

10月　☆第3回オープンキャンパス
・サポーター企画イベント…「クイズラリー」
・サポーター紹介リーフレット配布

11月　☆選書ツアー

12月　☆テーマ展示　「クリスマス」「編み物」「冬のスポーツ」「12月生まれの作家」

図書館サポーターの活動は、「鹿児島国際大学附属図書館サポーターブログ（http://iuk-plus.net/supporter/）」に掲載しているものもあります。ぜひご覧ください。

また、図書館サポーターは随時申込みを受け付けています。司書に興味のある方、本が好きな方、ブログを見て、図書館サポーター活動に興味を持たれた方、私たちと一緒に図書館を盛り上げませんか？お待ちしています。

Library Report

職場体験学習がありました

11 月 28 日から 30 日の3日間、鹿児島市立和田中学校の職場体験学習がありました。2年生の男子1名、女子2名の計3名の生徒が、図書の発注・受入業務、目録データの登録、カウンター業務等を体験しました。

初日は緊張しているところに、初めて見る図書館システム、初めて聞く図書館専門用語、学校生活と違う時間の流れでの作業に戸惑ったりしていたように見えました。それでも担当者の説明を聞き、一生懸命に業務に取り組み、3日目には、休憩時間に図書館の本を見る余裕もでてきました。

3日間という短い期間でしたが、この体験が、これからの進路を決める上で少しでもお役に立てれば、また、学校の図書室や、公共図書館を利用した時に、体験したことを少しだけ思い出していただければと思います。3日間お疲れ様でした。

Library Report

「My Library」がリニューアル！

9月末の図書館システムのリプレイスに伴い、「OPAC」や「My Library」がリニューアルしました。これによりパスワードの変更や、今まで図書館のカウンターで手続きをしていた貸出期間の延長が PC やスマホで簡単にできるようになりました。今回は、「My Library」での貸出期間延長の方法をお伝えします。

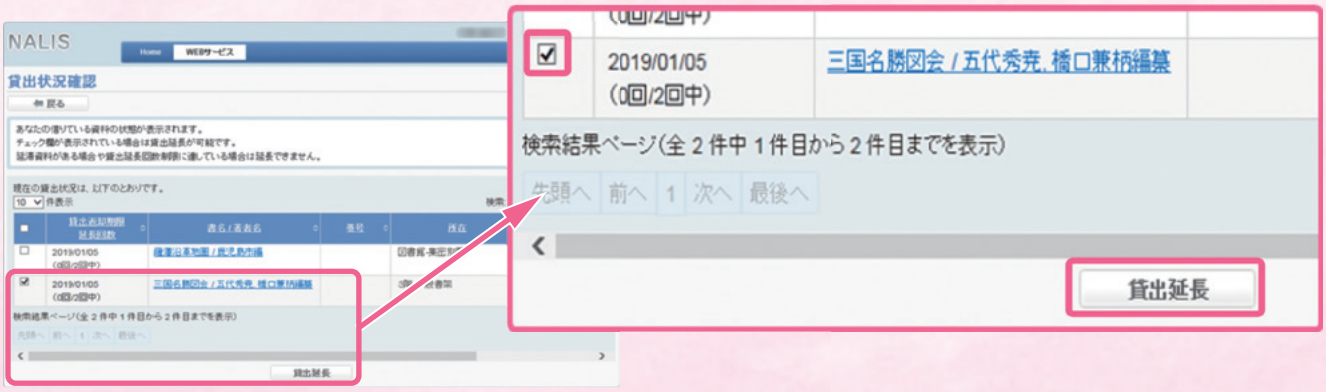
1. OPAC 画面の右上にある「My Library」をクリックします。

2.「ユーザー ID」「パスワード」を入れてログインします。

※図書館システムリニューアルに伴い、ID・パスワードが変更になりました。
新しい ID・パスワードについては9月 28 日にメールでお知らせしていますので、確認してください。

3.「WEB サービス」にカーソルを合わし、メニューを表示させ、メニューの中の「貸出状況確認」をクリックします。

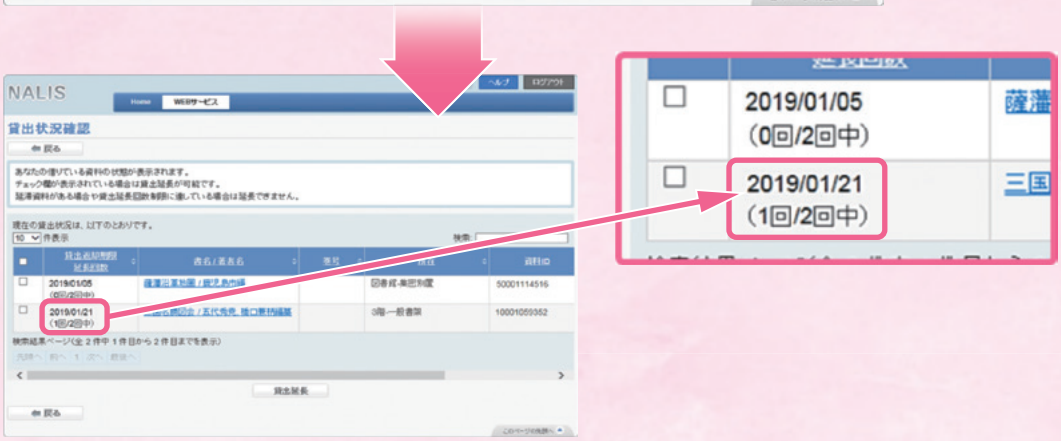
4. 貸出期間を延長したい本にチェックを入れ、「貸出延長」をクリックします。



5. 貸出延長情報を確認して、間違いがなければ「貸出延長確定」をクリックします。

※ 貸出延長を行わない場合は「キャンセル」をクリックしてください。
貸出状況確認画面へ戻ります。

6. 貸出延長の手続きが完了したら、「貸出状況確認表示」をクリックして、返却日を確認してください。



貸出期間の延長は2回までできます。延滞がある場合は貸出期間の延長はできません。
貸出期間の延長を自分でできるのは、とても便利ですよ。ぜひ使ってみてください。
My Library や図書館の利用など、分からないことがありましたら、お気軽にカウンタースタッフにお尋ねください。

編集後記

「図書館だより」第39号をお手に取っていただき、ありがとうございます。平成は4月30日までということで、最近、平成の出来事を振り返る企画や記事を目にする機会が増えたように思います。実はこの「図書館だより」の創刊号も平成元年3月1日発行です。同じ年度内に2～3回発行していた時期があったので、今号は39号となりますが、平成の時代と共にこの図書館の動向を皆様に届けてきたと思うと、なんだか感慨深いものがあります。

平成最後の発行となる「図書館だより」に原稿をお寄せいただいた皆様、本当にありがとうございました。

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－　第39号　2019年3月1日発行
鹿児島国際大学附属図書館　〒891－0197　鹿児島市坂之上8－34－1
TEL：099－263－0732　FAX：099－261－1198　E－mail：tosyokan@ofc.iuk.ac.jp
（URL）http://www.iuk.ac.jp/tosyokan/index.php